

ここがスゴイ!

▶ ストレートマスター編

立命館大学教職大学院

全国でも類を見ない2つの実践的取り組み

～ 附属校での「**院生講師制度**」・京都市立学校での「**非常勤講師制度**」～

立命館大学教職大学院では、附属校での「教職大学院生講師制度」と京都市立学校での「非常勤講師制度」という取り組みを行い、講師として学校現場で働きながら学ぶことのできる環境を提供している。勤務は大学院での履修に支障のない制度設計となっており、この全国でも先進的な制度を活用している3名の大学院生に話を聞いた。

まとめ/宮本猛 写真/池田薫

進学の決め手となった2つの講師制度

井上：皆さんが教師を目指したきっかけと、立命館大学の教職大学院へ進学した理由を聞かせて下さい。

上蘭：いじめや不登校などの様々な教育的課題に苦しんでいる子どもたちの力になりたいと思い教師を目指しました。立命館大学の教職大学院を選んだのは、いじめや不登校の未然防止について勉強がしたかったことと、院生講師制度があったからです。大学院で学びながら附属校で教育実践を積むことができますし、院生講師としての給与もいただけます。こんな魅力的な制度を利用しない手はないと思いました。

三輪：高校生の時、教育実習の先生の授業に感動して、教師になろうと思いました。私は母校である立命館中学校・高等学校で教育実習をしましたが、思い通りにできなかった悔しさがありました。そうした時、立命館の院生講師制度を利用すれば、大学院で学びながら、院生講師として母校で働くことができることを知り、進学を決めました。

古川：子どもたち一人ひとりを気にかけて、いつも温かい言葉をかけて下さった小学校の時の担任に憧れたのがきっかけです。京都市の教員を目指している私にとって、大学院で学びながら、京都市の学校で非常勤講師として働くことができるこの制度は、就職を希望する京都市の教育現場への理解を深めることができ、とても有り難いです。

井上：大学院生活と講師との両立、講師制度が皆さんの学びと成長にどう役立っているか、聞かせて下さい。

上蘭：週4日間、午前中附属校で勤務し、そこから大学院に移動して講義を受けています。勤務先の授業準備は、勤務と大学院の講義の合間の空き時間や土日にまとめてやっています。大学院の課題も土日にやっていて、正直大変ですが充実した日々を過ごしています。

三輪：院生講師は担当する学年・教科で、1年間を通して複数クラスの授業を担当するので、そこが学部の教育実習や大学院の実習科目とは大きく違います。どんな生徒がいて、どんな授業をすればいいか、長期間生徒と関わるからこそその視点で授業づくりを考えることができます。この経験は、教員になった時に大いに役立つものだと思います。

古川：私も毎日勤務している学校や子どもたちの様子を具体的にイメージしながら大学院の講義を受けることで、すごく成長できていると実感しています。大学院での学びが現実とかけ離れたものではなく、日々の教育実践と結びつき、より身近な課題をもとにして取り組むことができるからこそ、子どもたちのためにも、もっと学びたいという意欲が湧いてきます。立命館大学の教職大学院は、教員として成長するための最高の環境だと思います。



院生と談笑する井上研究科長。立命館大学教職大学院では、教育理論に精通した研究者教員と実践経験豊富な実務家教員が、院生の指導にあっている

大学院で学んだことをすぐに実践できる環境で、
教師としての力量向上を実感

井上雅彦教授

立命館大学大学院教職研究科
研究科長
(研究分野：国語科教育、
教育方法等)



古川輝さん

臨床教育コース1回生
(京都文教大学臨床心理学部出身)
京都市立朱雀第三小学校
非常勤講師



上蘭銀之助さん

臨床教育コース1回生
(北海道教育大学教育学部出身)
立命館宇治中学校・高等学校
院生講師



三輪萌香さん

国際教育コース2回生
(立命館大学法学部出身)
立命館中学校・高等学校
院生講師

理論と実践の往還・融合によって深まる学び

井上：講師経験が、教師としての力量形成の糧になっていることはありますか？

上蘭：大学院でリフレクションについて学んだ後、実際に自分の授業を振り返った時に、教師目線と生徒目線のずれに気付いて、それからは生徒目線を意識した話し方や授業の進め方を心掛けています。これも立命館の院生講師制度があったからこそで、大学院で学んだことをすぐに実践できる環境って、本当に素晴らしいと感じています。

三輪：私もそう思います。以前、大学院の講義で「記憶に残る授業」について話し合ったことがあって、その時思い浮かんだ授業を、附属校ですぐに実践してみたことがありました。立命館大学の教職大学院では、理論に裏付けされた実践を数多く積むことができます。その実践経験がまた新たな学びにつながっていくので、どんどん学びが広がっていく感じです。

古川：自分が理想とする授業ができるように、大学院の教員や勤務先の学校の先生から様々なことを学び糧にしています。最近のことですが、子どもたちが「先生の理科の授業が今までで一番好き！」と言ってくれたり、私の理科の授業があると知ると「やった！」と言って喜んでくれたりしました。苦勞して授業準備をしたことが、

子どもたちのやる気や授業の楽しさにつながっていると思うととても嬉しいです。

上蘭：講師としても働きながら、この2年間でしっかり勉強して、学び続ける教師の土台を固めたいと思います。大学院で学んだ経験を生かし、学びながら実践していく姿勢をこれからも大切にしていきたいと思います。

井上：皆さん、ありがとうございました。立命館大学の教職大学院では、立命館附属校での「院生講師制度」と2023年4月からは京都市教育委員会との連携による「非常勤講師制度」もスタートし、院生の皆さんに多様な学びの機会を提供しています。今後は連携する自治体を拡充し、院生のみなさんの学びがますます充実したものになればと考えています。

もっと知りたい! 「**院生講師制度**」・
「**京都市立学校での非常勤講師制度**」

教職大学院で学びながら、「院生講師制度」では、立命館大学の附属小・中・高で院生講師として、京都市教育委員会との連携による「非常勤講師制度」では、京都市立学校で非常勤講師として働き、給与が支給される立命館大学教職大学院独自の制度。理論と実践の往還・融合により専門性を高められ、経済的負担が軽減されるというメリットがある。

